熱工学コンファレンス 2018 開催報告

実行委員会 委員長　富山大学 平澤良男

今年度の熱工学コンファレンスは，国立大学法人富山大学工学部（総合教育研究棟）にて，平成30年10月20日（土）と21日（日）の2日間にわたって開催されました．

これまでのように10月の末開催とするつもりでしたが，10月末は「とやまマラソン」が毎年開催されており，ホテル予約が非常に困難であると予想されたため，10月20日（土），21日（日）に変更いたしました．幸いにも他の学会等との重複もなかったようで学術講演212件，参加登録者430名（スタッフ含む）と，多くの皆様にご参加いただきました．懇親会登録参加者も170名と大盛況のうちに終えることができました．ご参加いただきました皆様方には，心よりお礼申し上げます．

コンファレンスの初日は，どうしても当日参加者の殺到によって受付の混乱が予想されたので，プログラム担当実行委員の提案で各セッションの開始時刻を分散させ，終了時刻をできるだけ揃えることとしました．その結果，受付に慣れない学生バイトも混乱しなかったようです．もちろん，学会本部で入念に作成された記入書類や，名簿類がほぼ完璧であったことも大きな理由です．

2018熱工学コンファレンスでは，以下のように13のOS，一般セッション，熱工学ワークショップ，部門表彰，特別講演，懇親会で構成することとなりました．

OS-1：沸騰・凝縮伝熱および混相流の最近の進展
OS-2：多孔質体内の伝熱・流動・物質輸送現象とその応用
OS-3：革新的技術のための燃焼研究
OS-4：凝固・融解伝熱および結晶成長の新展開
OS-5：マイクロエネルギーの新展開
OS-6：電子機器・デバイスのサーマルマネジメント
OS-7：火災・爆発
OS-8：燃料電池・二次電池関連研究の新展開
OS-9：外燃機関・排熱利用技術
OS-10：熱化学的バイオマス利用の基礎から応用まで
OS-11：ふく射輸送制御
OS-12：地中熱利用などの未利用熱エネルギシステムの次世代技術
OS-13：熱工学コレクション2018（熱コレ2018）

富山大学　総合教育研究棟
（2018年度学部案内から抜粋）

どのセッションも大きなトラブルもなく順調に進行したこと，オーガナイザーの皆様のご助力のおかげと感謝いたします．熱工学ワークショップも盛況であったと伺っております．

富山市（呉羽山公園からの眺望）

懇親会風景（開始直前の様子）

部門長宗像先生のご挨拶

次期実行委員長田川先生のご挨拶

部門表彰および特別講演の会場には，多目的ホールを利用しました．このホールは階段教室となっておりスクリーンも大型で非常に立派な部屋ですが，映写システムがやや使いにくく今だにコントロールパネルの操作が不安です．しかし，準備の時間が比較的たっぷりありましたので，唯一の心配はなくなり順調に進行いたしました．

今回のコンファレンスの特別講演は，Northwestern大学教授の堂田邦明先生に「生産加工の最前線と熱工学」と題してお願いしました．先生は塑性加工や切削加工など生産加工における最先端技術分野における研究実績が顕著であることは周知の事実ですが，その中でも最近は加工分野における伝熱現象も重要であるとのスタンスから，ご専門の研究分野での熱的現象も重視しておられます．参加された皆様も興味を持っていただけたものと推察いたします．

懇親会は大学内には適当な場所がないため，別会場（電気ビルレストラン富山県民会館店）で行いました．このレストランは本店が別のビル（富山電気ビル県民会館から歩いて５～６分）にあり，会場を勘違いされた参加者もいらっしゃいました．表示方法を地元の人間の思考だけで考えていたようで，工夫するべきであったと反省しています．　ただ，懇親会の内容は大盛会であったと思います．私を含めて挨拶はできるだけ簡素に短くいたしました．参加者に存分に富山を味わっていただき，存分に意見交換，歓談していただきました．言い過ぎかも知れませんが，懇親会さえ成功に終われば・・・・コンファレンスは大成功！？さらに，レストラン側も料理の内容や提供のタイミングに配慮してもらえたようです．

基本的には「例年通り」を柱としてコンファレンスを組み立て，シンプルで参加者の皆様が意義のある研究発

熱コレクション表彰者と２ショット

副部門長丸田先生の中締め

表・討論を行っていただき，かつ楽しみながら充実した２日間を過ごしてもらううというのが目的であり本音でありました．

今回のコンファレンス会場は，富山大学に新設された「総合教育研究棟」とさせていただきました．３年前に建設された建物で，共用実験室，イノベーションルームなどの特色のあるミーティングルームと一般的な講義室から構成されています．講義室は各セッション会場として音響，スクリーンの大きさ等，ほぼ満足な使用感であったと自負しています．ただ，全ての部屋を学会で利用できなかったのが残念な気もしますが，これは贅沢というものだと思います．

今大会をお引き受けしたときに，まずは実行委員会のメンバーをどうしようかと迷ったのですが，以前他の学会シンポジウム実行委員長をお引き受けした時のメンバー中心にお願いしようと真っ先に思い付きました．他の大学や高等専門学校の方がほとんどになってしまいますが，メール会議などが普通の時代でもあること，公共交通機関でおよそ１時間以内の距離であること，以前の共同作業の財産として私の考え方への理解もあると考えたからです．気心の知れた委員の皆様のおかげで，実行委員長は開催日時，場所，懇親会会場等の枠組みをしておき，あとはそれぞれの担当部署で自由に動いてもらえるようにするだけでした．（要するに何もしなかったような気もしますが・・・）

私の大学の部屋が種々の書類や備品置き場になっていたため，山積みとなっていた段ボール箱が一気に消えていきました．爽やかな気分と満足感だけが残っています．あとは富山県や富山市への補助金申請業務などが残るのみとなりました．

参加された方も十分に富山を味わっていただけたでしょうか？富山の人々との交流なども気持ちの良いものとして，心に残っておれば幸いです．

実行委員メンバー
浅岡 龍徳（信州大学），瀬田 剛（富山大学），寺岡 喜和（金沢大学），寺西 恒宣（富山工業高等専門学校），中川 慎二（富山県立大学），畠山 友行（富山県立大学）